

学校名	建物区分	棟番号	構造	階数	建築年	面積(m ²)	耐震区分	優先度調査		第2次診断			改修年度	改修後	
								年度	ランク	年度	Is値(Iw値)	q値		Is値	q値
船越小学校	校舎	1-1	R	3	S51	972	旧基準			H16	0.57	(0.60)	H18	0.77	(0.81)
	校舎	1-2	R	3	S51	805	旧基準			H16	0.57	(0.60)	H18	0.77	(0.81)
	校舎	2-1	R	3	S51	1,383	旧基準			H16	0.46	(0.36)	H18	0.74	(0.59)
	校舎	2-2	R	3	S53	460	旧基準			H16	0.46	(0.36)	H18	0.74	(0.59)
	給食棟	3	S	1	S51	89	旧基準			H16	0.00	0.00	H18	0.80	2.46
	体育館	4-1	S	1	S52	560	旧基準			H16	0.46	1.42	H18	0.86	2.71
	体育館	4-2	S	1	S52	172	旧基準			H16	0.46	1.42	H18	0.86	2.71
音楽室棟	5	S	1	S52	130	旧基準			H16	0.36	1.45	H18	1.17	4.68	
船川第一小学校	校舎	1-1	R	3	S47	1,565	旧基準	17	③	H24	0.245	(0.328)	H25	0.71	(0.761)
	校舎	1-2	R	3	S47	1,851	旧基準	17	③	H24	0.245	(0.328)	H25	0.71	(0.761)
	校舎	1-3	R	3	S48	564	旧基準	17	④	H24	0.245	(0.328)	H25	0.71	(0.761)
	体育館	5	S	2	S47	858	旧基準	17	②	H23	0.31	0.94	H28改築予定		
	配膳室	9	S	1	S55	210	旧基準	21	⑤	-			-		
旧五里合小学校	体育館	1	R	1	S53	720	旧基準	17	①	H22	0.74	-	-	-	-
	校舎	2-1	R	2	S53	1,650	旧基準	17	④	H24	0.534	(0.594)	H25	0.704	(0.597)
	校舎	2-2	R	2	S53	542	旧基準	17	⑤	H24	0.534	(0.594)	H25	0.704	(0.597)
	校舎	2-3	R	2	S54	356	旧基準	17	④	H24	0.534	(0.594)	H25	0.704	(0.597)
払戸小学校	体育館	1	S	1	S54	870	旧基準	17	④	H23	0.41	1.27	H24	0.89	1.78
男鹿東中学校	管理・普通教室棟	1-1,1-2,2-1	R	3	S48,S49	3,402	旧基準	17	④,⑤	H22	0.263	-	H24	0.746	(0.634)
	特別教室棟	2-2,3-1,3-2	R	3	S49	2,388	旧基準	17	④,⑤	H22	0.416	(0.483)	H24	0.725	(0.645)
	渡り廊下	6	S	2	S50	60	旧基準	17	⑤	H22	0.31	0.95	H24	0.91	2.80
	体育館	4	S	1	S49	1,160	旧基準	17	①	H21	0.09	0.27	H24改築済		
船川南小学校	管理棟	1-1,1-2	W	1	S34	377	旧基準	-	-	H23	0.27	-	未定		
	普通教室棟	3	W	2	S34	1,198	旧基準	-	-	H23	0.27	-			
	特別教室棟	5-1,5-2,5-3 5-4,5-5	W	2	S34	1,043	旧基準	-	-	H23	0.29	-			
	渡り廊下①	2	W	1	S34	129	旧基準	-	-	H23	0.28	-			
	渡り廊下②	4-1,4-2	W	1	S34	96	旧基準	-	-	H23	0.15	-			
	トイレ棟	6	W	1	S34	125	旧基準	-	-	H23	0.36	-			

※ この表には、新耐震基準施行(昭和56年)以前に建築された建物のみ記載しております。
船川南小学校体育館及び払戸小学校校舎棟並びに、その他の学校は新耐震基準施行後に建築された建物です。

《用語の解説》

- 1 構造欄**
R : 鉄筋コンクリート造のもの
S : 鉄骨造のもの
W : 木造のもの
- 2 耐震区分欄**
旧基準 : 新耐震基準施行(昭和56年)以前に建築された建物
新基準 : 新耐震基準施行後に建築された建物
- 3 耐震診断**
耐震診断とは、建物が地震に対してどの程度耐え得る力を有しているかについて、構造力学上から診断するもので
- 4 優先度調査欄**
「優先度調査」は、正確には「耐震化優先度調査」といい、学校設置者が、どの学校から耐震診断を実施すべきか、その優先度を検討することを主な目的として実施するもので、その結果は5段階(①高い～⑤低い)の優先度ランクに判定されます。
- 5 第2次診断欄**
「第2次診断」は、建物の耐震性能を詳細に評価する診断方法で、実施した「年度」及び「Is値(Iw値)」及び「q値」、CT×SD値をそれぞれの欄に表示しております。
- 6 Is値**
Is値(構造耐震指標)とは耐震診断によりRC造、S造建物の耐震性能を示す指標で、Is値0.6以上で耐震性能を満たすとされていますが、文部科学省では学校の耐震強度はIs値0.7以上を保つよう求めています。
- 7 Iw値**
Iw値(構造耐震指標)とは耐震診断により、木造建物の耐震性能を示す指標で、Iw値1.0以上で耐震性能を満たすとされています。木造校舎について文部科学省では現在明確な数値を示していませんが、RC造、S造と同様に1.25倍程度の割増が必要になると思われます。
- 8 Is値、Iw値の目安**
Is値0.3未満 } 大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性が高い。
Iw値0.7未満 }
Is値0.3以上0.6未満 } 大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性がある。
Iw値0.7以上1.0未満 }
Is値0.6以上 } 大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性が低い。
Iw値1.0以上 }
- 9 「q値」「CT×SD値」**
「q値」「CT×SD値」(保有水平耐力に係る指標)は、地震による水平方向の力に対して建物に対応する強さを表すもので、その値が大きいほどよく、q値1.0以上、CT×SD値0.3以上が目標とされています。
q値欄の () で標示した数値は、CT×SD値です。